

テーマ展「軍記物語の世界—語り継がれる名場面—」展示作品リスト

番号	作品名称・作者	数量	時代	所蔵
さまざまな軍記物語				
1	将門記（群書類従のうち）	1冊	江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
2	保元平治物語	1冊	江戸時代	個人（龍家文書）
3	平家物語	12冊	江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
4	新刻太平記	21冊	江戸時代 寛文11年(1671)刊	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
軍記物語の名場面				
軍記物語を語る人びと				
5	七十一番職人歌合	1巻	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
6	琵琶 銘初音	1面	江戸時代前期 ～中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
描かれた軍記物語				
7	平家物語図鐔	1枚	江戸時代中期 ～後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
8	宇治川先陣図二所物 銘 後藤光孝（花押）	1組	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
9	武者図幟旗	2流	明治時代～ 昭和時代初期	彦根城博物館（孕石備前家伝来資料）
10	一ノ谷合戦図三所物 銘 紋程乗 光晃（花押）	1組	江戸時代前期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
11	堀川夜討図三所物	1組	江戸時代中期 ～後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
12	草摺引帷子図 （御武器并御道具類絵図・御家中指物武器類絵図のうち）	1枚	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
13	雪中常磐図 佐竹永海筆	1幅	江戸時代 万延元年（1860）	彦根城博物館
14	奈良絵本 保元物語・平治物語	12冊	江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
15	絵入太平記	41冊	江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
芸能の中の名場面				
16	能面 頼政 甫閑満猶作	1面	江戸時代 享保18年（1733）	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
17	能面 俊寛	1面	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
18	能面 十六	1面	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
19	長絹 紺地花菱亀甲文様	1領	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
20	唐織 紅白段流水に扇面と草花文様	1領	大正～ 昭和時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
21	大口 白地無文	1腰	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
22	腰帯 浅葱地揚羽蝶文様	1筋	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
23	修羅扇 金地波に入日図	1面	江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
24	謡本 船弁慶	1冊	江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
25	謡本 曾我物	1冊	江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
26	浮世絵 義経千本桜 二段目ノ切 大物浦	2枚 (3枚続のうち)	江戸時代後期	彦根城博物館（柳ヶ瀬初枝氏寄贈）
広がる軍記物語の世界				
27	八幡大菩薩旗	1流	時代不詳	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
28	連管 銘義経丸	2管	室町時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
29	笙 銘松風	1管	鎌倉時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
30	曾我五郎時宗腰刀図	1枚	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
31	南木大明神（楠木正成）像	1幅	江戸時代 文政3年(1820)	彦根城博物館
32	陣太鼓	1面	時代不詳	彦根城博物館（井伊家伝来資料）

写真解説

*番号は作品リストと一致しています。

5 七十一番職人歌合 1巻

しちじゅういちばんしよくにんうたあわせ

縦 33.8cm

江戸時代

彦根城博物館（井伊家伝来資料）

軍記物語は、書物や絵巻を通して親しまれるほか、音曲に合わせて物語を読み上げる語り物として古くから人々に親しまれてきました。こうした語物は、琵琶法師や瞽女（盲目の女性芸能者）らによって広まり、鎌倉時代には、平家物語を語る琵琶法師の存在を確認することができます。

本作は、16世紀末の成立とみられる絵巻 七十一番職人歌合を江戸時代に写したものです。ここでは、様々な職人を介して71組の和歌が競われ、その25番目には、撥で琵琶を弾き『平家物語』の一節を読み上げる琵琶法師と、鼓を打ちながら『曾我物語』を語る瞽女の姿が表されています。語物による軍記物語の伝播の様子がうかがえる資料の1つです。



8 宇治川先陣図二所物 銘 後藤光孝 1組

うじがわせんじんずふたところもの

筭総長 21.3cm 小柄総長 9.8cm

後藤光孝作 江戸時代中期

彦根城博物館（井伊家伝来資料）

刀剣の鞘に付属する金具である 筭 と小柄で、同一の作者および画題からなるものを二所物と通称します。この作品には、『平家物語』の「宇治川の先陣争い」の一場面が施されています。このエピソードは、木曾義仲の軍と源頼朝の派遣した軍が宇治川を挟んで対峙した折、頼朝軍の佐々木高綱と梶原景季が先陣を切るべく競うという内容です。結果としては、先行していた梶原が佐々木の言葉によって止まったため、先陣は佐々木が切ることになりました。筭には川を目がけて馬を駆る2人が表され、小柄では梶原を追い越して川に入り、先陣を切ることに成功した佐々木の姿を描いており、場面の展開を巧みに表現しています。

制作者は、江戸幕府の彫物師である後藤家13代の後藤光孝（1722～84）で、モチーフを浮彫風に表す高彫を駆使し、人物の表情や川の流れなど、細部まで彫り出しています。



【筭】梶原(右)に声を掛ける佐々木(左)



【小柄】梶原(右)を追い越して川に入る佐々木(左)

18 能面 十六 1面

面長 20.2cm 面幅 13.7cm

江戸時代中期

彦根城博物館（井伊家伝来資料）

軍記物語に描かれる著名な場面は、芸能作品にも数多く取り入れられ、人々の間に広まっていきました。特に、物語の情景や登場人物の感情を表す舞や謡などからなる曲舞や能には、『平家物語』や『曾我物語』を題材にした演目が多数含まれています。

この面は、能「敦盛」で用いられる専用の面です。『平家物語』の「敦盛最期」において、平敦盛は、数えて16歳という若さで、源氏の武将である熊谷直実くまがいなおざねに討たれます。能「敦盛」では、合戦の後に出家した直実が、敦盛の菩提ぼだいを弔うため一の谷を訪れた折、敦盛の霊が現れて自らの生前を顧みした後、直実に供養を願います。

敦盛の面相を表現した本作には、平家の公達らしく白い肌が表され、整った眉や切れ長の目、頬のえくぼなどからは美しさと若々しさを兼ね備えた少年像が窺えます。



32 陣太鼓 1面

径 33.0cm 厚 11.5cm

時代不詳

彦根城博物館（井伊家伝来資料）

この陣太鼓は、南北朝時代に南朝方の武将である楠木正成くすのきまさしげが用いたとの伝えがあります。

正成は、南朝の天皇であった後醍醐天皇ごだいごてんのうを支え、戦った武将で、その活躍の様子は、『太平記』に記されています。例えば合戦では、野戦や遊撃戦などを駆使して不利な戦況を覆すなど、度々南朝方を勝利に導いています。また、最期まで後醍醐天皇に従い、戦いの果てに自刃した姿勢から、忠臣の鑑としても広く知られています。

軍記物語に登場する人物にゆかりのある武具や楽器など、様々な道具は全国各地に残ります。その中には、実際に登場人物の所用と考えられるものもあれば、逸話などに基づいて仮託されたとみられるものもあります。本作は、江戸時代後期に井伊家の所蔵となったもので、真偽のほどは定かではありませんが、正成所用とみなされ、受け継がれてきたゆかりの品の1つです。

